

●会計別予算の執行状況 (9月30日現在)

会計名		予算額	収入済み額 支出済み額	収入率 支出率
一般会計		376億3,377万円	175億4,862万円 155億2,587万円	46.6% 41.3%
特別会計	市営墓地事業	1億3,520万円	39万円 878万円	0.3% 6.5%
	特定地域戸別合併処理浄化槽整備事業	614万円	132万円 258万円	21.5% 42.0%
	財産区	2,553万円	2,010万円 696万円	78.7% 27.3%
	国民健康保険	77億8,728万円	33億6,230万円 26億2,894万円	43.2% 33.8%
	介護保険	72億6,698万円	36億9,851万円 30億4,852万円	50.9% 42.0%
	後期高齢者医療	9億5,865万円	3億3,527万円 3億 211万円	35.0% 31.5%

※金額には、前年度からの繰り越しを含みます。

●会計別市債の状況 (9月30日現在)

会計名	金 額
一般会計	376億7,789万円
市営墓地事業	1,210万円
特定地域戸別合併処理浄化槽整備事業	177万円

●市税の収入状況 (9月30日現在)

市税	予算額	収入済み額	収入率
市民税	39億3,970万円	21億1,104万円	53.6%
固定資産税	45億2,350万円	31億7,723万円	70.2%
都市計画税・たばこ税など	14億6,000万円	9億 342万円	61.9%
合計	99億2,320万円	61億9,169万円	62.4%

●1人(1世帯)当たりの負担とサービス (9月30日現在)

区 分	市税の負担	市民サービス
1人当たり	85,595円	214,632円
1世帯当たり	200,671円	503,188円

※人口72,337人、世帯数30,855世帯(9月30日現在の住民基本台帳による)

## ネーミングライツパートナーの募集

民間事業者と連携して公共施設などを有効活用するため、ネーミングライツパートナーを募集します。

ネーミングライツの導入により、新たな自主財源の確保や持続可能な行政経営の推進を図り、市民サービスの向上と地域経済の活性化を目指します。

### 対象施設

- ▶円谷幸吉メモリアルアリーナ(牛袋町5)
- ▶文化センター(牛袋町11)
- ▶中央図書館(中町4-1・tette内)
- ▶たいまつホール(中町4-1・tette内)
- ▶でんぜんホール(中町4-1・tette内)

**募集期間** 12月19日(金)まで  
**契約期間** 令和8年度(予定)から原則5年以上

詳しくは、市ホームページをご覧ください。

財政課☎(88)9182



ネーミングライツ  
パートナーの募集

9月30日現在の一般会計予算の執行状況は、前年度からの繰り越しを含め、予算額376億3377万円に対し、収入済み額が175億4862万円、収入率46・6%、支出済み額155億2587万円、支出率41・3%となった。

出済み額が155億2587万円、支出率41・3%となっています(会計別予算の執行状況は、左の表のとおり)。今後も、市行財政改革の重点目標である「持続可能な財政基盤の確立」を目指して、限

りある財源を効果的・効率的に活用して、健全な財政運営の推進に努めていきます。

財政課☎(88)9121

# 持続可能な財政基盤の確立を目指して

## 令和7年度上半期の予算執行状況



解体前の長沼学校給食センター(本年度解体)

## 12月3日～9日は障害者週間

# 地域全体で自立をサポート

社会福祉課☎(88)8112



一人暮らし体験初日、まずは米研ぎからスタート

本市では、障がいのある人もない人も、お互いを尊重し、支え合う共生社会の実現を目指して、障がいのある人の自立や社会参加を推進するため、各種事業に取り組んでいます。

院や施設、親元から自立して一人暮らしをするための、体験の場を提供します。  
**④専門的人材の確保** 障がいのある人の生活を支える専門的人材の確保や養成を行います。  
**⑤地域の体制作り** 障がいのある人を支えるためのサービスや支援体制の構築などを行います。

談や体験の機会の提供など、障がいのある人の生活を支える拠点機能の一部を担う事業所です。  
**受付時間** 月～金曜日の午前8時30分～午後5時(祝日、年末年始を除く)  
**場所** 丸田町272  
**利用方法** サポートセンタープラスワンに直接申し込みまたは社会福祉課に相談  
**利用料金** 無料(食事代と暖房費は別途必要)  
**問い合わせ** サポートセンタープラスワン☎(94)8860または社会福祉課

障がいのある人が、住み慣れた地域で安心した生活を送れるように、4月から地域生活支援拠点事業を開始しました。関係機関が連携し、切れ目のない支援体制の構築を目指します。この事業は、次の5つの機能で構築されています。  
**①相談** 障がい福祉サービスなどの調整や相談、そのほか必要な支援を行います。  
**②緊急時の受け入れ** 障がいのある人を支援している親族などの急病、障がいの特性により起こる障がいのある本人の状態変化など、緊急時の受け入れを行います。  
**③体験の機会などの提供** 病



## 安心できる暮らしを目指して



サポートセンタープラスワン 代表 高橋恵美子さん

当センターは、緊急時の受け入れ支援や、自立した生活を送るためのサポートを行っています。

例えば「一人暮らしをしたい」という相談があれば、調理や洗濯、買い物などの生活に必要なスキルを身に付けるため、体験の場となる居室を提供します。また、ホームヘルパーや就労支援などの障がい福祉サービスと組み合わせながら、支援体制の構築などを行います。

私たちは、一人ひとりの「できること」「できないこと」を把握して、その人に合った支援方法を提案することで、障がいのある人が自信を持って自立し、安心して暮らせるよう、寄り添っていきたいと思います。

## 目指すべき未来のために 地球温暖化を防ぎましょう

国の地球温暖化対策計画では、2030年度の家庭からの二酸化炭素排出量を2013年度の実績から66%削減することを目指しています。地球温暖化防止のため、家庭での省エネ活動を心掛けましょう。

### 省エネ活動の例

- ▶エアコンの設定温度を調整して節電
- ▶水を出したままにしないで節水
- ▶太陽光発電などの再生可能エネルギーシステムを導入

環境課☎(88)9130

### 市の取り組み

家庭用の再生可能エネルギーシステムの設置を補助しています。また、小・中・義務教育学校で、地球温暖化防止や食品ロスなどについて学ぶ機会を創出しています。

